

ヒトパピローマウイルスワクチン

－子宮頸がんの予防を中心－

ヒトパピローマウイルスはどんなウイルスなの？

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、性感染症や皮膚病の原因となりうるウイルスです。性的接觸によって性器やその周囲に感染するほか、全身の皮膚の傷からも感染します。

HPV の感染が原因となる病気には、子宮頸がん、膣がん、尖圭コンジローマ、中咽頭がん、肛門がん、陰茎がんなどがあります。女性だけでなく、男性に起こる病気もあります。

子宮頸がんには何人くらいがなるの？

わが国では毎年、約 10,000 人の女性が子宮頸がんになり、約 3,000 人が亡くなっています。一生のうち、子宮頸がんになる女性は約 70 人に 1 人です。近年、20 代から 30 代の若い女性の患者さんが増えており、なかには小さな子どもさんを残して亡くなる方もいます。また、子宮頸がんの治療のために子宮を失って、妊娠できなくなってしまう女性も毎年、約 1,000 人います。

子宮頸がんの原因は？

子宮頸がんのほとんどは、HPV の感染が原因と考えられています。女性の多くが一生に一度はこのウイルスに感染するといわれていますが、おもに性的接觸で感染します。しかし、HPV に感染してもほとんどの人ではウイルスは自然に消えますが、一部の人で長い間感染が持続し、子宮頸がんになってしまいます。

子宮頸がんで苦しまないために、できることは？

将来、子宮頸がんで苦しまないために、できることが 2 つあります。

- ① 定期接種の対象年齢になったら、HPV ワクチンを接種すること
- ② 20 歳になったら、2 年に 1 度、子宮頸がん検診を受けること

HPV ワクチンはいつ接種したらよいの？

HPV ワクチンは 9 歳以上の女性ならいつでも接種することができますが、より効果が期待できるのは、最初の性的接觸が行われる前です。

無料で接種ができる定期接種の対象者は小学校 6 年生から高校 1 年生相当の女性ですが、標準的な接種時期は中学校 1 年生とされています。

高校 1 年生相当の方が 3 回とも無料で接種するためには、11 月末までに始めてください。万が一その時期を過ぎても、1、2 回でも接種することには意味があります。

HPV ワクチンにはどんな種類があるの？

HPV ワクチンには 3 種類（9 価、4 価、2 価）があります。接種間隔や接種回数は、ワクチンの種類や接種開始年齢によって異なりますので、医師に相談してください。

なお、2026 年度からは 9 価ワクチンのみが定期接種の対象となります。

HPV ワクチンの効果は？

HPV ワクチンは、子宮頸がんを起こしやすい HPV の感染を予防することができますが、9 価ワクチンの場合は 16 歳までにワクチンを接種すると、HPV の感染を 80～90% 防ぐことができます。

HPV ワクチンを接種している人の割合はどのくらいなの？

2025年10月15日の山形新聞に、全国のHPVワクチンの接種率が掲載されました。それによると、山形県では2025年3月末の時点で、16歳女性のHPVワクチンを1回以上接種した人の割合を示す累積初回接種率は82.1%で、全国平均の55.8%を大きく上回り、全国第一位になっています。これは世界で最高の接種率を誇るカナダやオーストラリアと同等で、山形県民のHPVワクチンに対する理解度がきわめて高いことを示しています。

HPVワクチンのリスクは？

HPVワクチンの接種後には、接種した部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがありますが、多くは数日以内に改善します。また、きわめてまれですが、重い症状（重いアレルギー症状、神経系の症状）が起こることがあります。

以前に、HPVワクチン接種後に体の広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動といった多様な症状が起きたことが報道されました。しかし、その後の名古屋市における調査研究で、HPVワクチンを接種していない方においても、HPVワクチン接種後に報道された症状と同様の多様な症状を起こした方が、同じ割合で存在することが明らかになりました。このほかにも数多くの調査研究が行われましたが、HPVワクチン接種と多様な症状の出現との間に因果関係があることは証明されていません。

HPVワクチン接種後に症状が生じたら、どうすればいいの？

HPVワクチンに限らず、すべてのワクチンにおいて、ワクチン接種によって医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害が残るなどの健康被害が生じた場合は、法律に基づく救済が受けられます。また、厚生労働省や山形県には、HPVワクチン接種後に症状が生じた方からの相談を受け付ける相談窓口が設置されています。

HPVワクチンを接種したら子宮頸がんにはならないの？

HPVワクチンを接種したからといって、必ずしも子宮頸がんにならないわけではありません。20歳になったら2年に1度は子宮頸がん検診を受けることが重要です。

HPVワクチンは男性にも接種したほうがいいの？

男性においてもHPVワクチンを接種することでHPVの感染予防が期待できます。また、性的接触によるHPV感染から女性を守り、子宮頸がんの予防につながる可能性があります。わが国では、男性においても9歳からHPVワクチンを接種することができますが、定期接種の対象ではないため、接種費用は全額自己負担になります。しかし、男性にHPVワクチンを接種する意義が認識されており、東京都をはじめとして接種費用を助成する自治体が全国に広がっています。山形県においても、1つの自治体で接種費用の全額を助成しています。今後、男性においても一刻も早く定期接種になることが望されます。

厚生労働省は、国内外の研究結果から、HPVワクチンの接種による子宮頸がんの予防効果などのメリットが、副反応などが起こるリスクよりも大きいことを確認しており、接種することを勧めています。

あなたの大切な子どもの命を守るために、十分に検討したうえで、HPVワクチンを接種するかどうかを判断してください。